



No. 134. (Vol. XII) 6

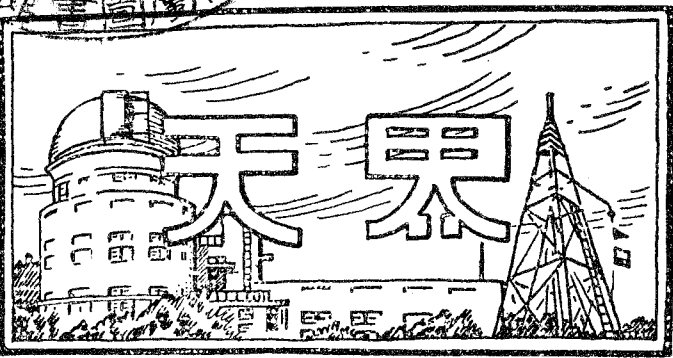
THE HEAVENS

June 1932.

編輯 理學博士 上田 穰

理學士 竹田新一郎 中村 要

第百三十四號 (第十二卷)



昭和七年六月號

時の紀念號

目次

五藤式プラネタリウムをかこむ東京支部會員の集り…………… (口繪寫眞)  
 新滿洲國の標準時制についての希望 (卷頭言) ……………205  
 フォー振子により地球自轉の寫眞撮影裝置 廣島文理科大學 中村 穰…206  
 常用時計の精密度…………… 上田支部長 宮島善一郎…211  
 漏刻から時計まで…………… 岩田 千八…215  
 時計としての北斗…………… 本會副會長 水野 千里…220  
 夏期時制の是非…………… 224  
 天文電報の話(6)…………… 理學博士 上田 穰…227  
 花山天文臺の光學工場(2) …………… 花山天文臺 中村 要…231  
 天文新知識(5件)……………235  
 本年六月の天象…………… 237  
 觀測部月報○流星○彗星○太陽…………… 240  
 我が觀測帳…………… 中村 要…248  
 通信と報告…………… 249

大正九年十二月二十四日第三種郵便物認可(毎月一冊、二十五日發行)  
 昭和七年五月二十四日印刷(紙本、昭和七年五月二十五日發行)

# 天文同好會

## 會 告

昭和七年六月の例會を、下の如く開きます。遠近より會員諸氏の來會を歓迎します。

時日： 六月十一日(土曜)午後三時

場所： 神戸市西須磨下小神(省線須磨驛下車)改發香嶋氏方

當日、下の講演があります。

講演：教授理學博士 山本一清氏「今日の大宇宙觀」

### Contents of THE HEAVENS No. 134, June 1932.

Goto's Planetarium (Frontispiece); On the Standrad Time of the new Manchuria (205); *Yutaka Nakamura*, Photographic Arrangements on Experiments with the Foucault Pendulum (206); *Zenitiro Miyazima*, On the Accuracy of Ordinary Clocks (211); *S. Iwata*, From Clepsydra to Clock (215); *Ch. Mizuno*, Great Dipper as the Clock (220); *Joe Ueta*, Story of Astronomical Telegrams (227); *Kaname Nakamura*, Optical Shop of Kwasan Observatory (231); Latest Knowledges on Astronomy (235); Heavens of June, 1932 (239); Monthly Reports, Observing Section, S. A. F (242); My Observation Note-Book (250); Letters and Reports (251).

## 美しい天文エハガキ

### 天文同好會發行

- 第1集 花山天文臺のモダン建築  
本館の偉容 表玄関 子午線館あたり
- 第2集 花山天文臺の尖端的な觀測設備  
クツクの望遠鏡 カルゾーの大反射鏡 90耗の午子儀
- 第3集 いろいろの天體寫眞  
スマトラの日食 二十日の月 土星の美姿

各集の價それぞれ金10錢 (送料三組迄二錢)

## 天文同好會

振替大阪五六七六五

五藤式プラネタリウム



山本會長を迎えて東京支部の集會

# 天文學第三回大講習會

日時 昭和七年八月十日午前八時から(三日間)

場所 岡山縣倉敷市大原農業研究所講堂

題目及び講師

1, 天體觀測法

京都帝國大學教授 山本一清  
花山天文臺長理學博士

## 天體觀測法

### A. 觀測の目的

- (1) 天體の位置の言ひ表し方と諸問題  
天球……地平座標……赤道座標……日週運動……時間……黃道座標……日月  
五星の運動……季節……曆
- (2) 天體の物理と其の諸問題  
光度……スペクトル……遊星面……色……寫眞

### B. 時刻の觀測

- (1) 時の種類 恒星時……平均太陽時
- (2) 星による目測法
- (3) 時計と其の取り扱ひ法 懷中時計と柱時計
- (4) 日時計
- (5) セキスタントによる時刻觀測 單觀測……復觀測
- (6) 子午儀による時刻觀測 目耳法……クロノグラフ法

### C. 經度の觀測及び計算法

- (1) 時刻の比較
- (2) 觀測 月……木星の衛星……掩蔽と月蝕の利用……無線法
- (3) 計算 (附、赤經の決定法)

### D. 緯度の觀測

- (1) 簡單な方法 北極星……太陽の高度
- (2) セキスタントによる方法
- (3) 天項儀による方法
- (4) 子午環による方法 (附、赤緯の決定法)

### E. 赤道儀による觀測

- (1) 赤道儀の構造
- (2) 測微器の使用法
- (3) 輪形測微器

## F. 天體寫眞の撮影法

- (1) 天體寫眞機の構造
- (2) 寫眞撮影
- (3) 寫眞板の測定法

## G. 光度の観測

- (1) 肉眼の方法 アルゲランダの法……ビケリングの法
- (2) 機械による方法 光度計……寫眞

## H. スペクトルの観測

- (1) 標準型の分光器 寫眞法
- (2) 對物プリズムを用ひる方法

## I. 遊星面の觀察

- (1) 望遠鏡の構造と諸性質 口径……焦點……倍率……對物レンズ……  
接眼レンズ……星像の研究
- (2) 月面 眼視……寫眞……月蝕
- (3) 太陽面 黒點……白斑……寫眞……日食
- (4) 諸遊星 金星……火星……木星……土星
- (5) 彗星

## J. 流星の観測

## K. 黄道光の観測

以 上

### 2. 課外講演

星座の歌と詩 天文同好會副會長 水野千里  
演題未定 前滿鐵專門學校教授 西岡永太郎

### 3. 天體観測

太陽、月、土星、恒星等。  
指導者 { 倉敷天文臺長 理學博士 山本一清  
同 臺長 理學士 宮原節兒  
同 臺員 荒木健兒  
同 主 事 水野千里

會費金貳圓 (學生半額)

但し天文同好會員は金壹圓五拾錢也

申込期日 昭和七年七月三十一日

申込所 岡山縣倉敷市高砂町倉敷天文臺 水野千里宛

昭和七年六月

主催 天 文 會 倉 敷 天 文 臺

# 天文同好會

—大正九年(1920年創立)—

會長	山本一清(京都市東一條)〔電話上5098〕
副會長	水野千里(岡山市門田21)
會計監督	池田政晴(京都市左京區岡崎黒谷町11)
幹事	竹田新一郎(大阪府北河内郡香里)〔電話寢屋川41〕
	中村要(京都帝國大學花山天文臺)〔電話上6165〕
會計	八木敬一(京都帝國大學天文學教室)
本部	京都帝國大學理學部天文學教室〔電話上980ノ222〕
倉敷天文臺	岡山縣倉敷市〔電話35〕—原名譽臺長〔電話75〕

## 天文同好會觀測部 (Observing Section, S. A. F.)

大正十年九月に組織されたもので、同好會員中の實際天文研究に興味を有する者より成る。上田博士を部長とし、今下記の八課に分れてゐる。

1. 流星課 (課長 小楨孝二部, 幹事 宮澤 堂)
2. 彗星課 (課長 中村 要)
3. 變光星課 (課長 小山秋雄)
4. 太陽課 (課長 上島 昇, 幹事 山本英子)
5. 黃道光課 (課長 荒木健兒, 同 龜井壽彦)
6. 豫報課 (課長 山本一清)
7. 機械課 (課長 中村 要)
8. 寫眞課 (課長 中村 要)

此の觀測部の觀測報告は京都帝國大學花山天文臺發行の**ブレテン** (英文報告) に發表られせる。

## 天文同好會觀測部規定 (昭和6年11月22日決定)

- 第一條 本觀測部ハ天文同好會ノ目的ヲ達スル爲メノ一事業トシテ、天體ノ觀測研究ヲ行フ。
- 第二條 本觀測部ニ下記ノ若干課ヲ置ク。  
流星課、彗星課、變光星課、太陽課、黃道光課、豫報課、機械課、寫眞課。
- 第三條 課長ハ部長ノ監督ノ下ニ、各課ノ事業ヲ統括シ、幹事ハ課長ヲ補佐スル。
- 第四條 天文同好會員ハ希望ニヨリ本觀測部員トナル事が出來ル。
- 第五條 部員ハ觀測上ノ必要ニヨリ課長ノ指導及ビ種々ノ印刷物ノ配布ヲ受ケル。
- 第六條 部員ハ部費トシテ天文同好會々計ハ月十錢ノ割テ年末マデノ分ヲ前納ノ事

天 界 第 百 三 十 四 號 昭和七年五月二十四日 印刷 定價 金 參 拾 錢  
昭和七年五月二十五日 發行 郵 稅 金 壹 錢

編輯兼發行者 京都帝國大學內(振替貯金口座大阪56765) 天文同好會(代表者山本一清)  
印刷所 京都市中京區柳馬場三條南入 株式會社似玉堂(電本426.427.4501)  
印刷者 京都市中京區柳馬場三條南入 福井松之助  
賣 捌 所 { 東京市神田區錦町1の10 新 光 社(振替東京43240)  
{ 東京市芝區南佐久間町2の3 恒 星 社(振替東京64738)

第 四 版

# 古賀恒星圖

本會大牟田支部幹事  
古賀 和 吉 氏 作

本會々長 理學博士  
山本一清氏 校訂

肉眼で星を見るためにも、望遠鏡で観測するためにも、星圖が必要であることは言ふまでもない。我が國の各地に星を見る人々が増すにつれ、近年はいよいよ星圖の要求が大きくなつて來た。本會發行の簡易星圖は此等の要求に應ずる最初のものであるが、天文趣味に少しく進んで行つた人は皆「もう少し詳しい星圖が欲しい」と言はれる。本會は創立の頃、會員古賀氏が作つた古賀恒星圖なるものを發行して其要求に應じた。以後版を重ねて現在四版に及んで居る、其出版に際して山本教授の手によつて多少の改訂が施され、版のデザインや印刷も幾らか改められ、美的で、清楚で、携帶に便利なものとなつた。

此の圖は、壁に掛けても好し、観測帳のページの間に挟んでも好し、折り込んでアトラスとしても好し、——實に、何にでも應用できるものになつた。價格も初版の五分の一である。

今や、肉眼星圖の完全なものとしては、此の星圖が我が國に唯一のものである。畫かれてある星の數4300個。星雲や星圖なども、主なものは皆含まれてゐる。

價 30 錢 送 料 2 錢 (筒入小包送料10錢)

改 正 第 六 版

## 簡 易 星 圖

大きさ 40 センチ × 50 センチ、肉眼恒星約 1000個。

一 枚 金 十 錢 (送 料 共)

發 行 京 都 帝 國 大 學 内  
天 文 同 好 會  
[振替大阪56765]

天 界

第十二卷第百三十四號(六月號)昭和七年五月二十五日發行  
大正九年十二月二十四日第三種郵便物認可(毎月一回二十五日發行)